

# 車停止19%に悪化

## 全国ワースト6位 昨年より8ポイント減

### 信号ない横断歩道

JAF（日本自動車連盟）が今年実施した全国調査によると、県内の信号機のない横断歩道で歩行者が渡ろうとした際、一時停止した車の割合は19・0%だった。全国平均の30・6%を大きく下回っている。道路交通法では一時停止が義務づけられているが、本県では約8割の車がルールを守っていないことになる。



信号機のない横断歩道では、歩行者が渡ろうとしても停止しない車が多い（10月30日、ひたちなか市で）

ひたちなか市東石川で10月30日午前10時頃、信号機のない横断歩道で同市の30歳代女性が入念に左右を確認し、車が来ないとみて小走り道で渡っていた。鹿兒島県出身だといいい、初めて茨城に来た時は、車が止まってくれないことに驚いた」と話す。

別の40歳代女性は、横断歩道の手前で約30秒間立ちどまり、車が来ないとみて小走り道で渡っていた。鹿兒島県出身だといいい、初めて茨城に来た時は、車が止まってくれないことに驚いた」と話す。

道交法では、横断歩道を渡ろうとする歩行者や自転車がいない場合、車は一時停止が義務づけられている。違反すると「横断歩行者妨害」として、懲役や罰金が科せられることがある。

その結果、長野県が85・2%で6年連続のトップだった。本県は19・0%とワースト6位。最下位は岡山県の10・3%だった。全国平均は、昨年の21・3%より約9ポイント上昇した。一方で、本県は昨年より約8ポイント低下していた。

同課の林崎真理事官は「横断歩道上の事故は、重大事故に直結する。歩行者は保護される存在だと認識してもらいたい」とドライバーに促している。

警察庁は今年4月、道交法に基づく「交通の方法に関する教則」を改正し、横断歩道を渡る際の注意点として、「手を上げるなどして運転者に横断する意思を明確に伝える」と明記した。ドライバーに歩行者の存在を認識してもらうため、歩行者にも対策を促す狙いだ。

県警も手を上げて横断することを推奨している。県警公式ツイッターや、メールアドレスの登録者に情報提供する「ひばりくん防犯メール」を活用して、「手上げ横断」の周知を図る方針だ。

### 手を上げ横断 県警推奨

の事故が減っていない。県警交通総務課によると、信号機のない横断歩道で発生した「人対車」の事故は、今年1～9月末に158件。昨年同期間より1件増えた。